

大野藩財務担当 中村重助矩辰 日記 3年費やし解説

市内歴史愛好家 1796年の記述冊子に



古文書を解説し冊子にまとめた大野古文書会のメンバー＝大野市内

大野市内の歴史愛好家でつくる「大野古文書会」が、大野藩家老中村重助矩辰の父矩辰がつづったとみられる日記を3年がかりで解説し、冊子にまとめた。編集を含め約6年を費やし、会員たちは「一丸となってひとつのことをやり終えた達成感がある。冊子を読み、大野に関心を持ってもらえたら幸せ」と話している。(栗原愛)

同会は、通信講座で古文書解説を学んでいた荒木京子さん(71)＝新庄＝らが1995年、地元の郷土史研究家故坂田玉子さんと発足。60～80代の12人が月に一度集まり、大野藩に関する資料を解説したり講演会を企画し

たりしている。

本紙新聞小説「わが殿」に登場した7代中村重助矩辰の父、6代矩辰は大野藩で財務担当の「勝手方」を担ったことで知られる。日記は加番として大坂城の警備を担当した1796(寛政8)年の1～10月に書かれたものとみられ、殿様との関わりや参勤交代の道中の話などが記されていた。古文書は20年以上前、解体作業をしていた市内の民家から見つかった。焼却寸前のところで手にした坂田さんから受け継いだ。「最初は誰が書いたものかさえ分からなかった」と荒木さん。破れや変色もあり状態は悪かったが「知らないことを知るの楽しい」とほりまみれの資料と向き合った。

れる行動がつづられている点や、一族の名前が多数登場する点から中村家の日記とみて解説。市史などで年代を照らし合わせ著者を矩辰と推測し、一字一字を丁寧に読み取っていった。

編集委員長の松田一郎さん(83)＝中野＝は「中村家の資料はほとんど残っていない。散逸する寸前のものを資料として後世に残せて良かった」と感慨深げに話す。

冊子では現物の写真をはじめて古文や解説文、絵図などを掲載。市史など多数の情報を組み合わせ、独自に作った中村家の家系図も紹介している。B5判、98頁、400部作製し、希望者に1冊千円で販売している。問い合わせは荒木さん＝0779(66)3926。